

かるやかに、リズムカルに、そして休みなく、その音は聞こえました。

ソロリソロリと沼に近づいて見ると、うす明りの中にも、はつきりと、ひとりの美しい娘が、月の光をたよりに、一生懸命にはた織^おりをしているではありませんか。

美しい鈴を振る音に聞こえたのは、はた織^おりの音だったのです。

その娘のあまりの美しさに、この男は思わず

「あつ。」

と、声を出してしまいました。

すると、その娘は、びっくりしてはた織^おりをしていた手を止めて、こちらをふりかえつたと思うと、スーッと消えてしまいました。

村に帰って来たこの男は、昨夜の話を村人にしました。この話を聞いた人は、自分も見たいと、スズブチに行った人も何人かいましたが、その後、二度とあらわれなかったという事です。